

令和6年産 コメ通信

第9号（令和6年8月22日）

【発行】
北秋田地域振興局農林部農業振興普及課
（電話：0186-62-1835）

登熟の進み早い！早めの刈取準備を！

1 気象経過と生育状況

【気象経過】

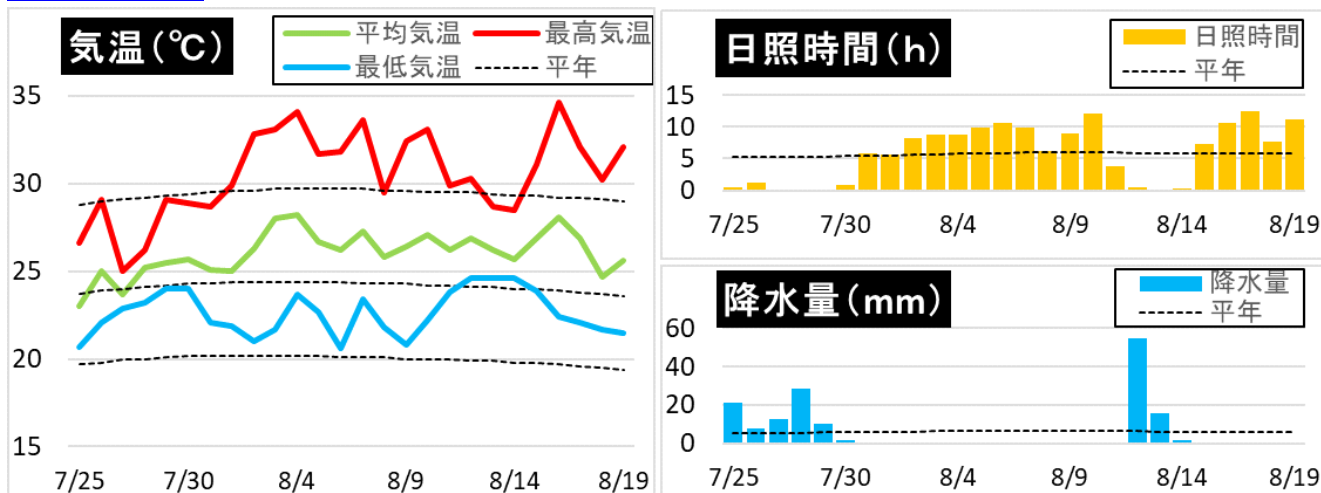


図1 気象経過図（アメダス鷹巣）

- 7月6半旬以降の気温は平年よりかなり高く、30℃を超える日が続きました（図1）。
- 日照時間と降水量は平均すると平年並となりましたが、7月6半旬は日照時間が少なく、降水量が多くなりました。また、台風5号の影響で、8月12日は強風・大雨となりました。
- 仙台管区气象台による1か月予報（8月15日発表）では、向こう1か月の東北地方日本海側の天気は、気温が高く、降水量がほぼ平年並、日照時間が平年並か多い見込みとなっています。

【生育状況】

- 8月20日現在の生育（あきたこまち：9地点平均）を平年と比べると、穂数は多かったものの一穂あたり着粒数が少なかったため、㎡あたりの着粒数はほぼ平年並となりました（表1）。
- 定点調査ほの出穂期は7月28日（平年差-3日）、管内全体の出穂期は7月31日（平年差-3日）となりました。

表1 定点調査結果（8月20日）

	穂数 (本/㎡)	葉数 (葉)	着粒数		出穂期
			(粒/穂)	(粒/㎡)	
本年	489	13.0	65.8	32,212	7/28
平年	459	12.8	71.3	32,590	7/31
前年	425	12.8	69.5	29,499	7/28
平年比	107%	+0.2	92%	99%	-3日
前年比	115%	+0.2	95%	109%	±0日

※平年は過去10か年の平均値を示す。

- 出穂が早かったほ場では、籾の黄化が進んでいます。高温で推移しているため、刈取時期が早まると予想されます。刈り遅れによる品質低下を招かないよう、早期に収穫体制を整えましょう。

2 今後の水管理

- 登熟の向上を図るため、出穂30日後までは間断かん水を実施し、土壌水分を保持しながら稲体の活力を維持することが重要です。特に、開花後25日間は米粒が肥大するため、土壌水分が不足しないように注意します。
- 浸水・冠水した稲体は、水分調節等の機能が低下しているため、田面の過度な乾燥に注意してください。
- 落水時期は、出穂30日後頃を目安とし、稲の登熟度やほ場の作業性等を考慮してください。1か月予報によると、向こう1か月の気温はかなり高いと予想されているため、玄米へのデンプン転流が低下し、白未熟粒の発生による品質低下が懸念されます。玄米の充実を図るため、可能な限り落水時期を遅らせて、稲体活力の維持を図ってください。

★カドミウム含有米の発生が懸念される地域では、出穂期3週間後まで湛水管理を厳守し、カドミウムの吸収を抑制してください。

3 病虫害防除対策

【斑点米カメムシ類防除】

- 病虫害防除所から8月7日に防除対策情報が発表されています。出穂期24日後頃に茎葉散布剤のキラップ剤（収穫14日前まで）またはエクシード剤（同7日前まで）を畦畔を含めて散布し、防除対策を徹底してください。
- 草刈りを行う場合は、稲の収穫2週間前以降に行います。
- 飼料用米でも、2回目の防除を行ってください。

4 刈取適期の判定

- 刈取適期は、品種や栽培方法によって異なります。本年は出穂期が早く、出穂後も気温が高く日照時間の多い日が続いているため、刈取時期が早まる見込みです。ほ場をよく観察し、総合的に判断して、刈取適期を逃さないよう注意してください。

【刈取適期の判定基準】

① 籾の熟色（図2）

葉や穂首が緑色であっても籾の黄化程度（黄色＋黄白色）が90%の頃

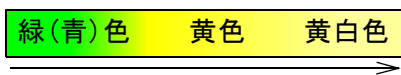


図2 熟色の進展

② 出穂後の日数

早生種（あきたこまち等）：出穂後45日頃
中晩生種（めんこいな等）：出穂後50日頃

③ 出穂後の積算気温

※出穂期翌日から日平均気温を積算した値（表2）

早生種：950～1,050℃
中晩生種：1,050～1,150℃

表2 積算気温到達日予想

出穂日	950℃(平年)	1050℃(平年)
7月20日	8月26日(8月30日)	8月31日(9月3日)
7月25日	9月1日(9月4日)	9月6日(9月9日)
7月30日	9月7日(9月10日)	9月12日(9月15日)
8月5日	9月15日(9月17日)	9月21日(9月23日)
8月10日	9月23日(9月24日)	9月29日(9月30日)

※ 8月21日以降平年値で計算

問い合わせはJAまたは農業振興普及課まで ～次回発行は9月下旬頃～